

SHIRAKOBATO

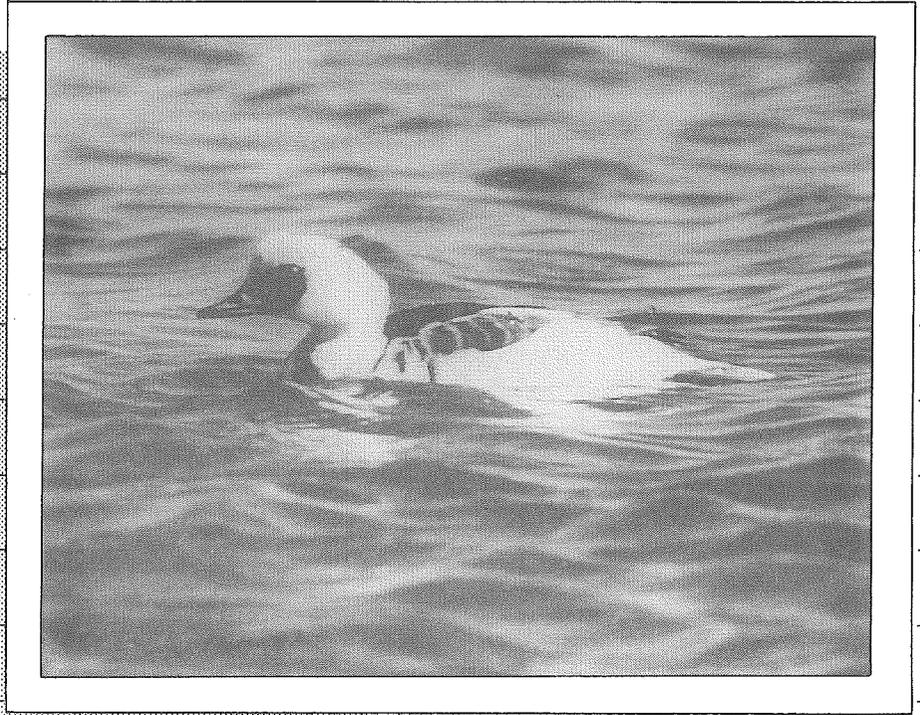
しらこぼと



1988. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO.54

日本野鳥の会 埼玉県支部

高麗川(坂戸市) — なつかしいふるさとの鳥を！ —

1. 自然環境とその特色

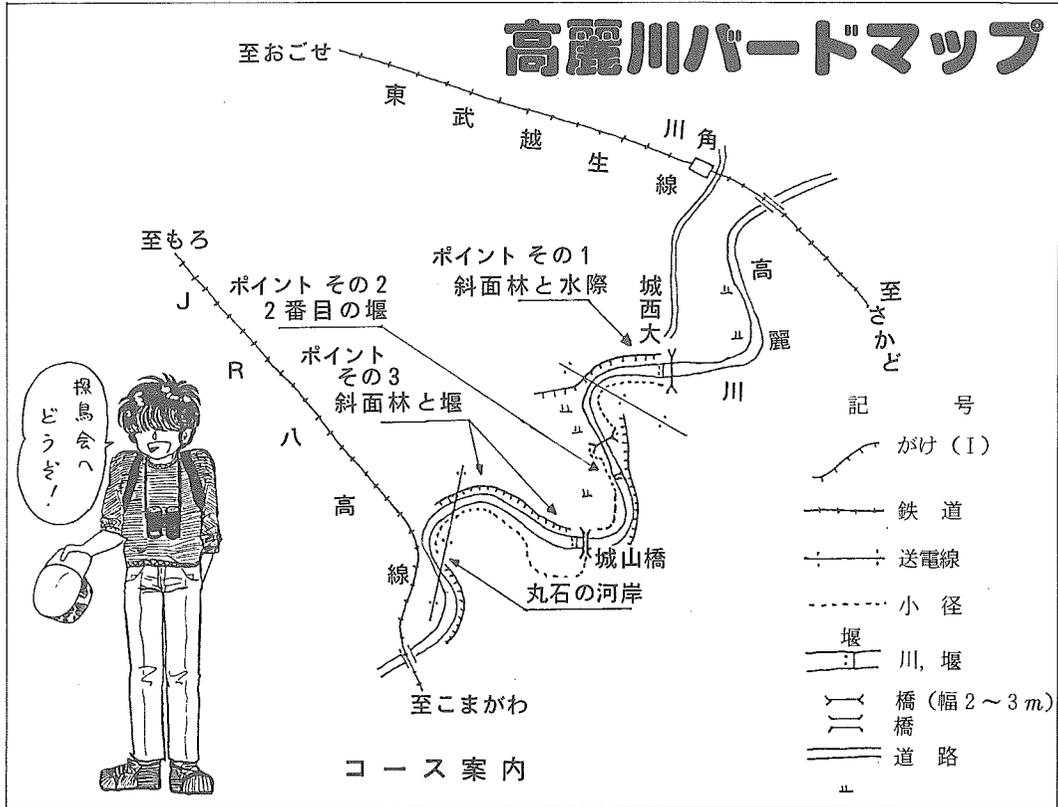
関東平野が平地から丘陵へと移り変わる地帯、北東から東へ向かって流れる川のひとつが、荒川の一支流、高麗川である。河況から言えば典型的な中流河川で、瀬や淵が繰返し、川床は土又は大きな丸石である。川幅は狭い所で3m、広い所で15m位で農業用水の取水

堰附近の岸にはアシやガマが生えている。川が丘陵とぶつかる所は20~40m位の崖になっており、斜面にはスダジイやアラカシの照葉樹、ケヤキなどの落葉広葉樹を中心にアカマツなども交え、自然林がごくわずかであるが、かろうじて残されている。川は灌漑用水で潤された田の中を通り、アカマツやスギの植林

表 鳥 相

種 名	春	夏	秋	冬
カイツブリ	○	○	○	○
ゴイサギ	○	○	○	○
ササゴイ		○		
アマサギ		○		
ダイサギ	○	○	○	○
コサギ	○	○	○	○
マガモ	○		○	○
カルガモ	○	○	○	○
ホオジロガモ				○
トビ				○
オオタカ				○
ハイタカ		○		
ノスリ				○
チョウゲンボウ				○
コジュケイ	○	○	○	○
キジ	○	○	○	○
ヒクイナ		○		
バン	○	○	○	○
コチドリ		○		
イカルチドリ	○	○	○	○
クサシギ	○		○	○
キアシシギ	○			
イソシギ	○	○	○	○
キジバト	○	○	○	○
カッコウ		○		
ヒメアマツバメ	○			
アマツバメ	○			
ヤマセミ	○	○	○	○
カワセミ	○	○	○	○
アリスイ				○
アカゲラ				○
コゲラ				○

種 名	春	夏	秋	冬
ヒバリ	○	○		
ショウドウツバメ	○			
ツバメ	○	○		
イワツバメ	○	○		
キセキレイ	○	○	○	○
ハクセキレイ	○	○	○	○
セグロセキレイ	○	○	○	○
タヒバリ				○
ヒヨドリ	○	○	○	○
モズ	○	○	○	○
ジョウビタキ	○		○	
シロハラ	○			○
ツグミ	○			○
ウグイス	○			○
オオヨシキリ		○		
セッカ		○		
エナガ	○			○
シジュウカラ	○	○	○	○
ホオジロ	○	○	○	○
カンラダカ	○			○
アオジ	○			○
カワラヒワ	○	○	○	○
マヒワ	○			
イカル	○	○	○	○
シメ	○			○
スズメ	○	○	○	○
ムクドリ	○	○	○	○
カケス	○			○
オナガ	○	○	○	○
ハシボソガラス	○	○	○	○
ハシブトガラス	○	○	○	○
ドバト	○	○	○	○



地、ウメやクワの畑、屋敷林がモザイク状に置かれている所を大きく蛇行しながら流れ下って行く。

坂戸市川角附近の高麗川は、約30年前、日本の高度成長期以前の田園地帯の鳥相をかるうじて残している。その要因は、まず斜面林が良く保存されていること、河川改修が大きく行なわれていないこと、小規模な平地林が残されていること、アソ原が残されていることなど、構造改善事業は行なわれているが河川と森林が荒川に見られる様な大規模な自然改変がされていないことがあげられる。一級河川の一支流にすぎないこと、丘陵との境のため特別な治水対策の必要が無いなどの自然地理的要因が大きく働いている。

2. 鳥相

鳥相は、1986年7月より約2年間のデータから季節別にまとめると、表に示すように水辺の鳥、里の鳥が中心で一部低山の鳥が混っている。

3. コース案内

東武東上線坂戸駅乗替えて越生行乗車。川角(かわかど)駅下車。改札口を出てすぐ踏切を渡り道なりに行くとY字分岐に出る。そこを左手に進むと高麗川が左手に見えてくる。城西大学下の橋を渡り川上の方向に進む。対岸の斜面林とその水際がひとつのポイントである。しばらく川沿いに進み左岸に渡り二番目の堰を左に見ながら歩く。この上、下もポイントである。しばらく川と離れて進むと道路橋、城山橋の下を通る。目の前に三番目の堰があり、この堰とその先の斜面林もポイントのひとつである。城山橋を渡り左手の道幅3m程の径へ入り、しばらく行くとふたたび高麗川の岸辺の径へ入る。岸からは対岸の斜面の森と八高線の鉄橋を見ながらしばらく行くと、一面の丸石の割合に広い河岸に出る。帰りは、また同じ道に戻る。鳥を探しながら歩くと約2時間半位、帰りは40分位で駅に戻ることができる。

(小荷田行男)

ぶっちゃけた話ですけど

実はわれらの埼玉県支部はビンボーなのです。衝撃の告白!! なんて言うほどじゃないけど、どんなふうにビンボーなのか、そのビンボーがどんなふうに問題なのかという話を、聞いてくれませんか。

決算書から収支を見ると

下のグラフは、61年度と62年度の決算額から、累積繰越金と在庫品額をのぞいた額を、大きな項目ごとに平均して割合を表わしたものです。「その他の収入」というのは、探鳥会参加費や指導謝礼金など、「その他の支出」というのは、支部報以外の印刷費、消耗品、通信費などです。

会費が収入のほぼ50%をしめていますが、その多くは支部報の印刷費と郵送料にあてられているようすがお分かりと思います。会費の残り、事業部の利益、寄付金と「その他の収入」を、「その他の経費」などにあてているわけです。

「お、繰越金が40万円も出ている。ビンボーではないじゃないか」とスルドイ指摘が聞こえてきそうですが、それがちがうのです。

払っていない経費の山

実は今まで知らん顔して払っていないまぼろしの経費の山があるのです。

と言っても、出前を頼んだラーメン代をふみたおしているとか何とか言うのじゃなくて支部事務所の費用や光熱費など、普通なら当然払わなければならない経費を今までまったく払っていないのです。

その辺の事情については前月号でもご説明しましたが、支部事務所として適当なスペー

スを別に確保するとすれば、賃借料や光熱費など月10万円近くは覚悟しなければならないでしょう。

ということは、年間いくらになるか、パチパチと計算して、あ、ととても足りない、そうか、やっぱり埼玉県支部はリッパにビンボーなのだ、しみじみ納得していただけるでしょう。

で、問題点は

今の事務局はもうはっきりと完全にダンコとして限界です。ほかに事務局分室をもうけることについて、事務局問題検討委員会（山部直喜委員長）を中心とした役員の間で話し合いが進められていることは、前月号のとおりです。そうすると、この「まぼろしの経費」がニカニカ笑いながら大きな顔で立ちふさがってくると、まあ、こーゆー具合に話はずながってくるわけです。

来年で支部発足以来5周年をむかえます。無理を重ねても今まで何とか運営してきました。そして今や、体勢のたて直しに着手することができるまでに、埼玉県支部は成長してきたとも言えます。

会員たちの衆知を集めて、会員たちの力を結集して支部は成り立ちます。どうぞご意見をお聞かせください。そしてどうかお力をお貸しください。
(総務部)

収入 (合計 2,835,253 円)

会費	事業部売上	寄付金	その他
1,385,925	845,956	289,771	313,602
49 %	30 %	10 %	11 %

支出 (合計 2,835,253 円)

支部報印刷費と郵送料	事業部仕入	その他	繰越金
1,198,380	602,330	625,715	408,829
42 %	21 %	22 %	14 %

まぼろしの経費

北川慎一（本庄市）

夏休みに本部の探鳥ツアーに参加してシベリアに12日間行ってきました。新潟から私たち30名を乗せた飛行機は、わずか2時間で小雨にけむるハバロフスクに着きます。ホテルの周りの公園では、ヤツガシラ（写真右上）が間近で採餌し、カササギが飛びかい、上空をアカアシチョウゲンボウが舞っていました。

さて、船に食料を積み込み広いアムール河を下り、最初の目的地である中洲のカタールへ。猟師小屋とテントに泊り、河で釣った魚をロシア人が料理してくれ、まさに広大な自然の中でのバードウォッチング。小屋の周りでは、ムジセッカがさかんに囀り、(キタ)ツメナガセキレイが歩きまわり、コウライウグイスが飛びます。ハシブトオオヨシキリの姿も。そして圧巻はコウノトリ、その優雅な飛翔がぐんぐん近づいて頭上を通り過ぎていきます。

次の目的地は、北緯62度の街ヤクーツク。ここはいままで開放されておらず、私達が初めての外国人観光客。夜の10時を過ぎても、まだ外は薄明るい。ここでは、ソビエト科学アカデミーのユーリィ博士に案内していただき、郊外のタイガ地帯へ。牧草地ではジリスがあちこちの穴で顔をのぞかせています、池ではハジロクロハラアジサシや多くのカモが繁殖しており、「この中には日本に渡ってくるものもいるのか」と思うと感慨深くなります。シロエリオオハムの美しい夏羽の姿を見ることもできました。さて、林の中に入っていきます。足元一面は、30センチはあるだろうかコケが積み重なっており、まるでフワフワのじゅうたんの上を歩いているようです。



その上に寝ころび、あたりのコケモモやクロマメの実をつまんで口の中へ放り込むと甘酸っぱい味が広がってきます。周りではエゾライチョウが飛び、アカリスが動きまわっています。「いた／＼」という声にとび起き、声の方へ行ってみると、カラフトフクロウ（写真左下）が私達のことを気にも留めないといった風情で、その威厳ある姿を見せてくれます。しばし、うっとりとして見とれていました。ヤクーツクでは、この他に、クマゲラ・コアカゲラ・ノハラツグミ・ヨーロッパビンズイ・マミジロタヒバリ・アカオカケス・キマユムシクイなどを見ることができました。

続いて憧れのバイカル湖へ飛びました。あいにくの小雨だったものの、花の咲き乱れる湖畔での探鳥は気持ちよいものでした。ホシガラスやアカモズが飛びかい、ハシグロヒタキやシロビタイジョウビタキがひょっこり姿を現わします。シジウカラも、ヨーロッパの亜種で、胸に強く黄色味が掛かっています。

そして、さらにシベリアの奥地、タイガの中に忽然と広がる町ブラーツクへ向かいました。さっそく郊外へ、ここではオガワコマドリが繁殖しており、すぐそばで見ることができました。小川沿いのブッシュでは、オジロビタキやノドジロムシクイ、カラフトムシクイ、カラフトムジセッカなどが姿を見せ、識別に頭を悩ませました。

最後に再びハバロフスクに戻って街の中をぶらぶら。短い夏を精一杯楽しむかのように、華やかな服装のロシアの人々が大通りをアイスクリームを頬ばりながらのんびり歩いています。鳥だけでなく、広大な自然や僅かとはいえソビエトの人々の生活ぶりに触れることもできた思い出に残る探鳥旅行でした。

野鳥情報

ハジロカイツブリ ◇9月26日午後5時30分、越谷市西新井の調整池で1羽。頭を背中にいれて休んでいたが時ならぬ地震で驚いたのか、首を伸して周囲を見回す。私の越谷市における102種目の記録である(山部直喜)。

アオサギ ◇9月12日、熊谷市大麻生の熊谷大橋付近で1羽(鈴木暁子)。

ササゴイ ◇7月30日、狭山湖で1羽(佐藤方博)。◇8月29日午後6時30分、所沢市久米の松ヶ丘遊水池で1羽。餌をとっていた(佐藤方博)。

マガモ ◇9月15日、浦和市の国昌寺付近の芝川で1羽(若林正徳)。

コガモ ◇9月7日、鴻巣大間1丁目上空で12羽通過(榎本秀和)。◇9月13日、浦和市の白幡沼で2羽(海老原美夫)。◇9月15日、本庄市の阪東大橋下流の上空で53羽。2～3群にわかれて飛び回っていた(林滋、町田好一郎)。

オナガガモ ◇9月15日、浦和市秋ヶ瀬A地区で12羽(石井 智)。

キンクロハジロ ◇9月23日、浦和市の国昌寺付近の芝川で1羽(若林正徳)。

オオタカ ◇9月4日、長瀬町の宝登山で枯木の枝上に1羽(山口輝雄)。

サシバ ◇8月29日、皆野町の箕山上空で1羽(山口輝雄)。◇9月15日午前8時、本庄市の阪東大橋下流で、シギチ調査中に高度約50メートルで上空を北東より南西方面へゆっくりと6羽渡って行く(林 滋、町田好一郎)。

ハヤブサ ◇9月3日、長瀬町の宝登山で1羽(山口輝雄)。

チョウゲンボウ ◇7月22日、鴻巣市大間の荒川河川敷で♀1羽。9月10日、同所で同じく♀1羽(榎本秀和、みち子)。◇8月19日、熊谷市大麻生で1羽(諏訪隆久)。◇9月10日、熊谷市西別府の別府農耕地で1羽(諏訪隆久)。

キジ ◇9月11日、鴻巣大間の荒川河川敷で

♂1羽♀4羽。♀4羽の内1羽は雌親らしく体がひとまわり大きかった。残りの3羽は、大きさ以外は親鳥と同様。♂は頭部以外は♀の外観に近く尾も短かったが、換羽の真っ最中で、胴体が褐色と緑色のまだら模様になっていた。♂1羽♀3羽は当年生れの同胞と思われる(岡安征也、杉本秀樹、吉原俊雄、榎本秀和)。

ヤマドリ ◇9月10日、鴻巣大間の荒川河川敷で♂2羽♀3羽。同じ草陰から姿を現わし、草刈られた休耕地を、採餌するスズメやムクドリを蹴散らすかのように個々に横断。♀3羽は外観的には成長期であったが、♂2羽は頭部以外はやや♀の外観に近く尾もまだ短かった。この5羽は母子連れか、あるいは全部が当年生れの同胞ではないかと推察される。この場所で繁殖したのだろうか。それにしてもヤマドリの分布域からは、だいぶはずれているように思われるが(榎本秀和)。

オオバン ◇9月11日午後5時30分、本庄市の阪東大橋下流の釣りの付近で成鳥1羽幼鳥1羽の親子。仲良く水草をついばんでいた(町田好一郎)。

ムナグロ ◇9月16日、本庄市の阪東大橋下流の中洲で9羽(林 滋)。

オグロシギ ◇9月12日、浦和市秋ヶ瀬A区で1羽(近藤 崇)。

ハマシギ ◇9月16日、本庄市の阪東大橋下流上空を雨の中130羽。西へ東へ飛びまわる(林 滋)。

シラコバト ◇9月10日、鴻巣市大間の荒川河川敷で1羽。荒川の西岸より飛来。東方へ飛び去る(榎本秀和、みち子)。

カッコウ ◇9月3日、熊谷市西別府で若鳥1羽(諏訪隆久)。◇9月18日、浦和市中尾の自宅付近で1羽(草間和子)。

ショウドウツバメ ◇9月10日、鴻巣大間の荒川河川敷で20羽(榎本秀和、みち子)。

モズ ◇7月30日、入間市の狭山丘陵で高鳴きをする(佐藤方博)。

イカル ◇8月30日、大宮市日進町で1羽。きれいなさえずり。9月2日にもさえずる(森本國夫)。

クロアシアホウドリの観察報告

台風が去ったあとには、内陸の方でも海鳥が観察されることが時々ありますが、あの阪東大橋でまた大物が出現したようです。

1988年9月17日(土)午後1時30分頃、本庄市の利根川の阪東大橋下流で観察されました。以下、会員の林 滋さんの報告です。

町田好一郎さん、井上 茂さんと共に野鳥観察中、阪東大橋方面より利根川沿いに下流に向かって、水面から50~80m位上空を単独で飛ぶ。大きくはばたき、時々滑空をし、一直線ではなく、大きく左右に巡回しながらゆっくりと下流に向かって行った(西方から東方へ)。

翼の長さはトビより長い、巾は細長く、先はとがっていた。全体は黒褐色(こげ茶)

で上及び下尾筒部分だけ白く、上、下尾筒部の白は明確な線ではなくボサボサとした感じであった。クチバシは黒く、先端が下に曲っていた。足は黒く見えた。翼と胴の部分には白いところは全くなかった。以上のことからクロアシアホウドリと判断した。すぐに車であとを追い、利根大堰まで追いかけたが見失ってしまった。写真はハッキリわかるのは撮れなかった。

当日及び前後の天気の状態は、台風18号が15日に関東海上を通過。17日は朝から小雨が降り、12時頃雨があがり、くもり空となる。風は南東約3~5mであった。

台風18号の為、太平洋上から迷行し、利根川沿いに太平洋に戻る途中と思われる。

【11月の見どころ】

朝夕めっきり冷えこむ季節となりました。皆さんの周囲にももういろいろな冬鳥達が来ていることでしょう。カモ達も常連組が顔をそろえ、雄達も本来のきれいな衣装に着がえて、水面が急に華やかになったような気がします。冬の使者ツグミも無事に秋色濃い越冬地に到着したでしょうか。田圃に出てみると貴公子タゲリもその優雅な姿を見せてくれるでしょう。私が岩手に居た頃、タゲリは見たくてたまらない鳥の一つでした。初めてこの鳥を見た時の感激は今でも覚えています。富士見市の柳瀬川左岸の田圃は駅にも近いし、タゲリを見るには絶好だと思えます。

私の故郷の家の近くの山では、11月になると「ヒッヒッ」という声と共に「ヒッチョロ、



(村上由香)

チョロリ」といってどこか寂しげな声が聞こえていました。何の声でしょう。そうですルリビタキのさえずりです。ルリビタキは冬には里におりてきますが、モズと同じように冬期なわばりをもって単独で暮します。そのテリトリー宣言なのでしょう。この時期、時々聞かれます。県内でも山ぞいでは、このさえずりが聞かれるかもしれません。木々は葉を落とし、吹く風が冷たさを増す頃に聞くあのさえずりは、もうそこまできている冬を感じさせてくれる気がします。(藤原寛治)

表紙の写真

バードフォトコンテスト入選作

ミコアイサ

体が白くてバンダのように愛敬がある顔のミコアイサは、私のフィールドでは11月の末ごろに到着するようです。

渡ってきたばかりのときはオスもメスと同じような色をしています。そして、ひっきり

なしに水中に潜るので、はじめてみたときは何という種類のカイツブリだろうと思い、図鑑のカイツブリのページをいっしょうけんめいに探したことを思い出します。

(写真と文・登坂久雄)



吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：11月6日（日）
 集合：午前9時30分 東武バス停百穴入口前
 交通：東武東上線東松山駅東口8：58発、または高崎線鴻巣駅東口8：50発のバス利用。
 解散：午後1時ごろ
 後援：埼玉県（第43回愛鳥週間「全国野鳥保護のつどい」キャンペーン行事）
 担当：榎本秀和、乗田実、岡安征也、赤瀬征雄
 見どころ：まだエクリプス羽もいるカモの群。
 百穴から、大沼にそって県道まで歩きます。水面のカモや岸の風景が、しっとりと落ち着いた風情を感じさせてくれる晩秋の吉見です。

栃木県・奥日光探鳥会

期日：11月12日（土）
 集合：午前6時50分 大宮駅東武線改札口前
 または、午前7時35分 春日部駅日光方面行きホーム最前部
 交通：現地までは東武鉄道快速（浅草7：10発→春日部7：43発→東武日光9：13着）、および東武バス利用。切符は日光フリーパスがお得です。
 帰路：東武鉄道快速春日部19：20着利用予定
 担当：中島康夫、楠見邦博、松井昭吾
 見どころ：戦場ヶ原に初冬の小鳥をもとめて。広大な高層湿原はもう冬景色。冷たく

野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。
 探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、（もしあれば）双眼鏡など。参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。
 身支度ができたら、さあ出発！

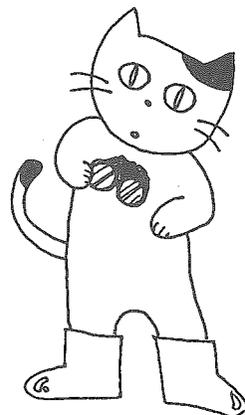
澄んだ空気の中をキツツキのドラミングがこだまします。防寒と足ごしらえは念入りに。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：11月13日（日）
 集合：午前9時30分 秩父鉄道大麻生駅前
 交通：秩父鉄道熊谷9：04発→大麻生9：12着／ 秩父鉄道寄居9：01発→大麻生9：19着
 解散：午後1時ごろ
 担当：諏訪隆久、鈴木忠雄、榎本秀和、林滋、岡安征也、町田好一郎
 見どころ：晩秋の河原に、はずむ鳥影。枯野に群れる小鳥たちや、川面に散らばるカモの姿を観察しましょう。もちろん上空にも気を付けて。

◇来月の行事予定

12/11 熊谷大麻生
 9：30 大麻生駅前
 12/11 渡良瀬
 9：10 柳生駅前
 12/18 浦和市三室
 8：15 北浦和東口
 12/18 森林公園
 10：00 公園南口
 12/25 支部忘年会
 1989年
 1/3 さぎ山公園
 9：30 公園駐車場



（榎本みち子）

富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月13日（日）
集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅前
交通：武蔵野線南浦和8：20発→北朝霞8：31着、東武東上線乗り換え、朝霞台8：49発→柳瀬川8：54着／ 東武東上線東松山8：17発→川越8：43発→柳瀬川8：57着

解散：午後1時ごろ
担当：藤原寛治、福井恒人、長谷きみ子、黒田佳子、杉本秀樹
見どころ：田園の貴公子タゲリの群（Ⅰ）。
白黒の翼をはためかせながら、稲刈りの終わった田圃に冬の訪れを伝えます。

浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：11月20日（日）
集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または午前9時 浦和市立郷土博物館前（北浦和駅の場合、その後バス利用）

解散：午後1時ごろ
後援：浦和市立郷土博物館
担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田実、手塚正義
見どころ：三室の里にも冬の訪れ。気が付けば、いつの間にかツグミやジョウビタキが来ています。いつも忙しすぎるあなた、たまには季節のうつろいを実感してみませんか。三室の里はあなたのためのオアシスです。

桶川市・川田谷探鳥会

期日：11月23日（水・祝）
集合：午前9時 桶川駅西口（その後現地までバス利用）
交通：高崎線大宮8：33発→桶川8：47着／高崎線熊谷8：23発→桶川8：47着
解散：午後1時ごろ
担当：北川慎一、森本國夫
見どころ：田園の貴公子タゲリの群（Ⅱ）。
ミューミュー鳴きながら突然巻き起こる大乱舞。やわらかな日差しを受けて、背中が輝きます。

『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月26日（土） 午後1時～3時ごろ
会場：浦和市立コミュニティーセンター2階第1講座室（浦和駅西口から県庁通り西進、中山道を左折し約600m右側）
案内：おしゃべりしながらの楽しいひととき。でも、手のほうはテキパキ、テキパキ。

野鳥写真クラブ定例会

とき：11月26日（土） 午後3時ごろ～5時
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ
案内：袋づめに集まる人のもう一つの楽しみが、実はスライド。見る人、見せる人、あなたはどちら？

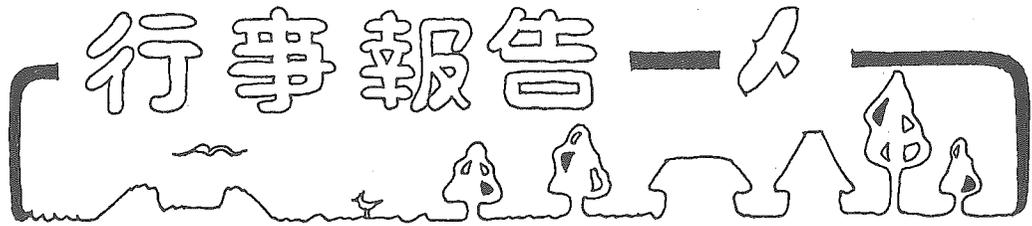
坂戸市・高麗川探鳥会

期日：11月27日（日）
集合：午前9時 東武越生線川角駅前
交通：川越線大宮7：35発→川越7：54着、東武東上線乗り換え8：00発急行（8：20発特急も可）→坂戸8：14着、越生線乗り換え、8：35発→川角8：44着
解散：午後2時ごろ
担当：中島康夫、楠見邦博、松井昭吾、横山みどり、宮内武昭
見どころ：清流にきらめく青い光。初冬の空を映す川面にカワセミがダイビング。ヤマセミもきっと姿を見せてくれるでしょう。

本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：12月4日（日）
集合：午前9時 本庄駅北口（その後現地までバス利用）
交通：高崎線大宮7：44発→熊谷8：26発→本庄8：49着
解散：午後1時ごろ
担当：北川慎一、林滋、町田好一郎、小淵健二、新井清子、萩原正二
見どころ：中洲に憩うカモの群。そろそろ赤城おろしが吹き始める阪東大橋。カワアイサやホオジロガモが待っています。

行事報告



9月4日(日) 第5回リーダー研修会

講師 飯塚利一(本部普及部)

参加者 赤瀬征男、浅田徳次、五十嵐浩(初)、海老原教子、海老原美夫、岡安征也、小淵健二、金子真理(初)、楠見邦博、楠見文子、小林恒雄、杉本秀樹、諏訪隆久(初)、手塚正義、登坂久雄、中島康夫、乗田実、林滋、林待江(初)、藤野富代、藤原寛治、町田好一郎(初)、松井昭吾、簗輪左知子、簗輪眞澄、森本國夫、横山みどり、吉原俊雄(初)、渡辺周司(29名) (初)は初参加

リーダーたちの1歩前進を目指して、今年は今までより時間を2時間も多く取り、支部の運営に関する討議も含めて、熱気にあふれた研修会が開かれた。

支部創設以来1度も欠かすことなく毎年開催されているリーダー研修会は、他の支部からも注目されている。

花も嵐も踏越えて、横断歩道は手を上げて、埼玉県支部は進み続ける。その原動力の一つがこのリーダー研修会。より良い探鳥会と確かな支部運営の実現のため努力を重ねている。

9月10日(土) 神奈川県 多摩川河口

人 28人 **天気** 曇 **鳥** カワウ ゴイサギ ダイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイセン トウネン ハマシギ アオアシシギ キアシシギ ソリハシシギ オグロシギ オオソリハシシギ ユリカモメ ウミネコ アジサシ コアジサシ キジバト ツバメ ハクセキレイ ヒヨドリ シジュウカラ スズメ ムクドリ ハシブトガラス

(30種) シギ・チは例年より数、種類とも少なくて残念だった。と言っても11種も見られたのだが、ここでは少ないのだ。心残りな人は、二次会の大井野鳥公園でセイトカシギ、

ヒバリシギなどを見て帰途についた。

9月11日(日) 熊谷市 大麻生

雨のため中止。

9月15日(祝) シギ・チドリ類一斉調査

参加者 石井 智、海老原教子、海老原美夫、榎本秀和、香川裕之、金井祐二、金子真理、北川慎一、草間和子、小荷田行男、小林恒雄、小林芳江、佐藤晶人、杉本秀樹、鈴木忠雄、諏訪隆久、登坂久雄、中島康夫、林滋、福井恒人、藤原寛治、町田好一郎、森本國夫、山部直喜、横山みどり(25人) あいにくの雨模様であったが、本庄市の阪東大橋、熊谷市の大麻生、大宮市の深作沼調整池、浦和市から大宮市にかけての通称秋ヶ瀬地区の4カ所で調査が行われた。

9月18日(日) 浦和市 三室地区

人 49人 **天気** 曇 **鳥** ゴイサギ チュウサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ オナガガモ ハシビロガモ チョウゲンボウ アオアシシギ イソシギ タシギ シラコバト キジバト トケンSP カワセミ コゲラ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ ヒガラ シジュウカラ メジロ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス(35種) 曇っていたが、さわやかな天気。お目当てのエゾビタキは現われてくれなかったが、芝川に出てみると、この探鳥会では初めてのハシビロガモがいて、皆声を上げた。上空をアオサギ、ゴイサギが飛び、木にチュウサギ、川にコサギと4種のサギが見られた。カワセミも先月に続いて姿を見せ、充実した探鳥会であった。



うーむ、なるほど（三室にて）

9月23日（祝） 寄居町 鐘撞堂山

人 32人 天気 曇 鳥 カイツブリ
 コサギ カルガモ トビ オオタカ サシバ
 コジュケイ キジバト カワセミ キセキレイ
 ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ
 モズ ウグイス シジュウカラ メジロ
 ホオジロ スズメ ムクドリ カケス オナ
 ガ ハシボソガラス ハシブトガラス(24種)
 あいにくの曇天だったが、期待のサシバが6
 羽舞い、木に止まった顔つきも全員見られた。
 エッコーラ頂上に着いたところで雨になった。
 鐘撞堂山周辺はゴルフ場の造成が進み、ある
 いは今回が最後の探鳥会になってしまうかも。
 サシバはどこで羽を休めたらよいのだろう？

9月25日（日） 浦和市 秋ヶ瀬

人 19人 天気 雨 鳥 アマサギ チ
 ユウサギ コサギ カルガモ コガモ ノス
 リ バン イカルチドリ ムナグロ クサン
 ギ タカブシギ タシギ キジバト アマツ
 バメ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ
 イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ
 ヒヨドリ モズ スズメ ムクドリ ハシボ
 ソガラス ハシブトガラス(26種) 天気予報
 は「大雨」だというのに、何で19人も集まる
 のだろう？ 解けぬ疑問を抱きながら、19人の
 ツワモノたちは、雨に濡れた草をかき分けな
 がら進んだ。「これが埼玉県のクサワケだ」
 などと訳の分からないことを言いながら。
 （そんなことを言い出したのは、当然「恐怖
 のグジャレ男」のリーダー）。

グジャレにも毒されず、雨にも負けず、頭

上を飛び交うショウドウツバメやシギの群れ、
 モズの高鳴きも響き。やはりいいものだ。

9月25日（日） 本庄市 阪東大橋

人 6人 天気 雨 鳥 カイツブリ
 ゴイサギ アマサギ ダイサギ コサギ ア
 オサギ カルガモ コガモ トビ オオバン
 コチドリ トウネン イソシギ アジサシ
 キジバト カワセミ ヒバリ ショウドウツ
 バメ ツバメ セグロセキレイ モズ ノビ
 タキ オオヨシキリ メボソムシクイ セッ
 カ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクド
 リ ハシボソガラス ハシブトガラス(31種)
 小雨の中、懲りない面々が集まりスタート、
 天気は悪いが内容の濃いものだった。秋を告
 げるノビタキのクリッとした瞳、渡りの途中
 のアジサシは目の前で華麗なダイビングを披
 露。ここでは珍しいオオバンの姿も。今年も、
 終わった後、幹事の林さんの実家で栗拾いをさ
 せていただき、秋満喫。

10月1日（土）『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、海老原教子、
 海老原美夫、金子真理、佐藤晶人、諏訪隆久、
 登坂久雄、林滋、藤野富代、横山みどり、吉
 田二三子、渡辺敦、（12人）御苦労様。

10月1日（土） 写真クラブ定例会

集まった人 20人 作品発表した人 5人
 牛と対話しているようなアマサギ、オース
 トラリアで撮影してきた見慣れない色鮮やか
 な野鳥や魚、探鳥会風景……今回も魅力あふ
 れる写真がいっぱいだった。



ワライカワセミ（登坂久雄）



バードフォトコンテスト 入選作発表

7月号でお知らせしたバードフォトコンテストには42点の応募があり、9月18日の役員会で審査の結果、次の30点が入選と決まりました。

市川計彦(サシバ)、海老原美夫(カルガモ、オシドリ、アマサギ、コサギ、クロツラヘラサギ、アカショウビン、メジロ、モズ、ツミ)、佐藤晶人(ササゴイ)、登坂久雄(オナガガモ、ミコアイサ、カワアイサ、ゴイサギ、タゲリ、キジバト、ノビタキ、ホオジロ、アオジ、ビンズイ、キビタキ、ニューナイスズメ、スズメ)、日笠達夫(ムナグロ、ツグミ)、町田好一郎(コハクチョウ、オナガガモ、カワセミ、オオヨシキリ)

多数ご応募ありがとうございました。

バードウォッチング・フェスティバルの写真展や、埼玉新聞の連載などで早くもデビューしましたが、今月号を最初として今後『しらこぼと』の表紙にも次々と登場します。お楽しみに。

ありがとうございます

次の方からご寄付をいただきました。

大麻生探鳥会に集まった人たち(9/11雨で中止でしたが) 700円、笠井実 4,000円、黒田佳子 15,000円、齊藤チエ子 5,000円、乗田実 3,000円、役員会 567円。

(50音順、敬称略)

題字『しらこぼと』=山下静一(財)日本野鳥の会会長、イラスト見出し=鷹尾正済(p5, 6, 12, 表紙デザインも)・鈴木加代子(p8)・渡辺周司(p10)

会員数は
10月20日現在 936人です。

活動報告

- 8月29日 『しらこぼと』9月号発送(海老原)。
 - 9月15日 シギ・チドリ類県内一斉調査。
 - 9月18日 役員会(司会・横山みどり、バードウォッチング・フェスティバル企画、バードフォトコンテスト応募作品審査、事務局問題、その他)。
 - 9月24日 アイリスメガネ本社でフェスティバルについて打合わせ(海老原)。
 - 9月26日 事業部事務処理など(草間)。
 - 9月27日 埼玉新聞社で連載について打合わせ(海老原)。
 - 9月27日 10月号校正(大武昭雄=写真右、西城戸司、森本國夫)。
- いつもご苦労さま。
- 10月2日 タカの渡り県内一斉調査。
 - 10月6日 バードフォトコンテスト入選作、「埼玉の野鳥いきいき写真展」出品作として、写真と文の連載、埼玉新聞に開始。



わたしの職場では、このところ毎年秋の渡りの時期になると、桜の木のそばにトケン類の羽毛が散乱しているのが見つかります。この秋も2箇所、ツツドリとカッコウと思われる羽毛がありました。猛禽にやられたのか、それとも落鳥して野良猫に見つかったのか、未だに謎です。このような例を観察された方はいますか。(森本國夫)

『しらこぼと』 1988年11月号(第54号) 定価 100円(会費に含まれます)

発行人 今井昌彦 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 ☎ 0488(32)4062

〒 336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号プリムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社 (本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)